

厚生福祉

2005年(平成17年) 8月30日(火)

第5313号 (購読料金 月額税込み4,300円)



時事通信社

◇昭和28年5月30日 第3種郵便物認可
◇毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)
◇発行所 東京都中央区銀座5丁目15番8号時事通信社
電話 (03) 6800-1111◇郵便番号104-8178
©時事通信社2005

人生をナビゲートする

今日、病院は何となく騒がしい。「The夏祭り」(盆踊り大会)の日が来た。主催は、当医療法人の地域生活支援センター、生活訓練施設、福祉ホームB型とデイケアのメンバーである。三カ月前から、準備を進めてきた。開始は夕方からであるが、患者の期待と緊張が院内にピーンと張り詰めているようである。以前は病院主催、看護師やOT、ワーカーが前面に立ってやっていたが、三年前に患者主催に切り替えた。緊張感が病状によい影響を与えているようである。外来に来ていた患者が自分たちの友人を呼んだり、他の施設に通所しているメンバーにまで連絡しているのか、回を重ねるにつれて、参加者はだんだん多くなっ

医療法人西浦会
理事 西浦信博



てきた。退院促進につながる催しにもなっている。当医療法人は九年前に援護寮をつくった。その当時は確たる方針があつたわけではないが、二十人が二年間入所し、彼らが地域での自立した生活をするようになり、次の二十人がまた入り、だんだん階段を上るように社会復帰をしていく人たちが増えてきた。医局の医師にも、患者の社会復帰していく流れが見えるようになり、入院患者に援護寮に入るよう勧めるようになった。四年前に福祉ホームB型を近所に建設した。援護寮から福祉ホームB型への流れも出来た。小さな流れであった退院促進の渦がより大きな見える動きとなり、職員全員が社会復帰の流れに注目するようになった。

た。病院の外来、支援センターのホール、院庭に患者が集まるようになった。心と心に橋が掛かり結婚した人たちがいる。食事会をする者もいる。隣の部屋が空いたので一緒に住まないかという誘いを受けて、退院した患者もいる。情報交換し、再入院した仲間の面会に来たり、不幸があれば、誘い合つて慰めに出掛けている。仲間同士の支え合いが再発を防いでいる。関連施設の清掃に出掛け、毎日規則正しい生活を送っているメンバーも十人を超えた。個々の患者について、その人に合った人生をいかにナビゲートすればよいか、次々と新しい問題が生まれ、それが精神科医のテーマとなっている。地域の中で信頼できる精神科病院になるためには、まだまだ多面的な努力が必要である。